令和元年11月20日(水)～21日(木)

大槌高校魅力化事業 先進地視察
福島県立ふたば未来学園高校に訪問してきました

大槌高校魅力化事業の一貫として、11月20日（水）21日（木）の2日間で福島県立ふたば未来学園高校へ視察に行ってきました。 7月に行われた島根県立津和野高校への視察に続いて2回目の先進地視察となります。

参加者は、大槌高校副校長、教諭5名、魅力化構想会議委員1名、大槌町教育委員会2名、魅力化推進員2名、NPOカタリバ（コラボスクール大槌臨学舎）2名の計13名です。

1日目は、福島県教委主催「アクティブラーナー教員育成研修」に参加して、丹野校長の講演や「産業社会と人間」「未来創造探究」の授業見学など、ふたば未来学園の取り組みについて勉強させていただきました。

午後に見学した学校併設の地域協働スペース「双葉みらいラボ」は、放課後から20時半まで自習や探究活動に自由に取り組むことができ、NPOのスタッフにも相談ができるそうです。地域の鮭を使った商品開発に取り組む3年生の生徒とも対談させていただき、「探究活動で自ら地域の企業と交渉を重ねる経験を通して、大人とのコミュニケーションする力やたくさんの人と協力する大切さを学んだ」と語ってくれました。

2日目は、探究授業の企画などを担当する「企画研究開発部」橋爪先生、南郷副校長の2名と意見交換をさせていただきました。このような先進的な取り組みを行うまでには多くの先生方の努力や苦労があることが分かると同時に、実際に大槌高校で取り組みを行っていく際にどのような工夫ができるのかをじっくりと考える機会になりました。

また、「開校から5年経ち、2期生が卒業してやっと成果が目に見えるようになってきた」という南郷副校長のお話が印象的で、魅力的な学校づくりに向けて実践と改良を重ねながら取り組みを進めていく重要性を感じました。

最後に、バスで双葉郡の各所を回りながら、東日本大震災と原発事故の被害現状を視察してきました。帰宅困難区域との境界にバリケードが設置された箇所は、2011年から時が止まっているような町の風景が広がっていました。また、休校を余儀なくされてしまった高校や廃炉資料館なども見学し、原子力災害の恐ろしさを改めて感じました。

同じ震災を経験した高校として、視察で学んだことを活かしながらカリキュラムづくりや生徒が学びたいと思えるような魅力的な学校づくりに活かしていきたいと思います。